【新訳】科学的管理法　マネジメントの原点

フレデリック W．テイラー＝著　　有賀裕子＝訳　ダイヤモンド社
より抜粋

科学的管理法は、「雇用主と働き手の利害は、最終的には一致する」という揺るぎない信念をよりどころとしている。雇用主が長く繁栄を続けるためには働き手に豊かさをもたらすことが不可欠であり、働き手が豊かであり続けるには雇用主の繁栄が前提となるのだ。また、雇用主は、働き手が何より求めているもの、つまり高賃金を支払いながら、念願どおりに人件費を低く抑えるのも夢ではない。
Ｐ１１より

科学を探るにあたって、通常は各自が作業の一部を行うのに必要な動作について簡単な分析と時間研究を実施する。その際に用意するのは、ストップウォッチと罫線入りのノートだけである。
Ｐ１３６より

「法則を導くための五つのステップ」

- 第一ステップ　¨分析対象の作業に非常に長けた人材を、一〇～一五人ほど選り抜く（できれば、勤務先や地域がばらついているほうが望ましい）
- 第二ステップ　¨各人が作業の中でどのような操作や動作をするか、基本的なものを押さえるとともに使用ツールについても把握する。
- 第三ステップ　¨各基本動作に要する時間をストップウォッチで計測し、各動作を最も短時間でこなすための方法を選ぶ。
- 第四ステップ　¨適切でない動作、時間がかかりすぎる動作、役に立たない動作などをすべて取りやめる。
- 第五ステップ　¨不必要な動作をすべて取り除いたあと、最も要領のよい、最適な動作だけをつなぎ合わせ、最善のツールを用意する。

Ｐ１３７より

この最善の方法を標準に据えて、まずは指導者ないし各部門の職長がそれを身につけ、次に彼らがすべての作業者に教える。そうしてやがては、より時間がかからず、よりよい方法に置き換わる。
Ｐ１３８より

【著者】フレデリック　W．テイラー
１８５６年、アメリカ・フィラデルフィアに生まれる。ハーバード大学法学部に合格するも、眼の病気により、郷里で機械工見習いとなる。その後、ミッドベール・スチールに日給の作業者として就職。作業長、職長に昇進する中で工場現場の改革に注力するとともに、機械工学の修士号を取得。９０年に同社を退社し、数社で工場管理に従事した後、９９年ベスヘルム・スチールに移り、作業や工具の標準化、生産計画立案部署の創設をはじめ、多くの実績を残す。
１９０１年に同社を退社し、「科学的管理法」の研究を重ねながら、その普及に専念する。０６年にアメリカ機械学会（ＡＳＭＥ）会長に就任。０９年にはハーバード大学で経営管理論の講義を行っている。１５年、６０歳で他界。